枝桑拾葉集

廿九ノ下

和書門
類 二〇六三九
函 七九
架 八
冊 三一

内閣文庫
和書
類 二〇六三九
號
冊 三一
函 三六三
架 一

内閣文庫
番號 和 20639
冊數 31 (30)
函號 263 32

国立公文書館
National Archives of Japan

壽藏鑑定

扶桑拾葉集巻第二十九下

目録

賀古京澄陽別　豊臣勝俊
同　同
道　同
播陽藏院岩沢市左衛門
同　同
祖母の思ひ出けり時の事
同　同
父二位法眼の時代の事

浅草文庫

国立公文書館
National Archives of Japan

同　一
同　砂壽院殿いまめの辞
同　寺号法不といまめの辞
同　梅窓丹僧といための辞
同　林叔勝といまめの辞
同　うぶね
同　ちぬけまきこ
同　きかゝ夜
同　なふまきと

詩世　一　同

二

拾葉集巻第二十九下

参議従三位兼行右近衛權中將源朝臣光圖編集

一 賀古京澄饗ぬ

豊臣勝俊

山上に恨をやはとゝ作りし雅俊の
内侍の口ずさ宗澄乃ぬしまうけ
ぶ。おもゝ年の皮くさきをもむつひと人ゝ
てとりくれも荏羅門もものしぬきを
とあやまちをんつを空て多ゝ
をれし情もおほろまゝはつし。
ちゝをとゝ孫とまちゝもぬんといを

ろせて、ていとうよあすのほうあきこけ
きぶちよりはるかのぬさもとりあへぬほど
けりとふるうの恨たまりてやむ
へうもあるべしとゆゆしき冨きい人よをくれ
り、あるうをもてまうやゆまへしと、
我今羅網よりあるて、いやしきちまきよ
いよれ、もまたとうふ業のあるべ風と
ゝゝすもんあるれさむ、やうと行とや
しりて、あれ衆のとうよめをさましてうし
うきあすのいをやすくめるふてうう
ゝ、ちうやうをうよをわり、さて嬉見

のあしくよすまれおそれすもあり次、
うをうのいのうへうへてきうへあるる行
凡まり至毒れふる衆のあめまり至毒
ひいうめううる分うりとりていかなり、
銭送もいかりをうすへきなれたうひ
腰ゆかをワせううひなりもうまるよ
ちうんとれもいちまうて、いと入
くゆもりをるれいるうるし、
君を又あひ思ちく、こううみちゆ
くうれをううる、恨をきうまうて
のふもゆううくうなれをあへ

また、あつさうひきうしゝやうにん
男子いてもちゝのあつてすゝころさし
をとゝ紙くちとうて、分をまてすゝやゝ
名をすゝし、投持ちらよ銀きゝ、あの
おことをうゝへき、けめてそゝをのうゝ
ろあれとゝ紙さへゝ、筆のまゝ書つゝき
もあゝまちいてうゝ、ゝゝるゝゝれみゝあゝ
かゝまゝいる考れとゝいゝはゝんあるゝほ
ゝていいまけるゝもしるまゝうあゝ
すや、李氏のまゝん人のゝひゝ仁
人ゝゝ切まゝすとゝゝうゝへきなゝ

ゝとゝれゝひていゝくゝといてんゝう
あゝねゝゝゝやゝこのゝちもおほゝき
まゝてゝへゝゝんゝちけゝゝゝも
なゝいゝゝゝもゝのゝゝちゝゝん
ゝのゝの友いゝおゝほゝんゝゝ

道園銭別

同

ひゝきあいゝよ髪けゝまゝ眠ゝけゝん
とゝすれゝいゝまゝ其人をゝゝ玉載をゝ
らゝしゝゆきの家ゝ月ゝ名のあゝ
なれとゝうゝまゝ仏ゝをゝむゝとゝゝう

けう・きつハいなとせうもて情をくれ
ちりもものきよ・ゆくきるよ・ハいちうす
れぬとなけく人もありけんを・今ハむけ
よまもてく土ともおもくなく・いてや
う用さてうるれの鹿を・まれくたく
わもあるも・那波道英といひしあるし・
もとよりひろく学ひつまやうりうはる
こうろざをこうこ・飲夫藤先生う
ものるくひしとうこいあほうる中よひ
ちうきこうろかはうこうりうん・一とせ分
まうりのうくしも・つうめをこうるいひし

さ海れもさうん・学のつうこうねて
なくへまうこうこうし・おほまそ人の塚
あうんこうれうこ・よ人ようさほし
き又仮ふ・あれよやさしきひうる
ゆう・ひしものを古病あほよりなん・
今ハのきまよしくゆまて笑せ沢ひつ
まれ宗ましまうこうしす・今もかしら
けくて・悔ふあまいあうしを・係よ大史
のけむゆく人をして・彼岡りこうん
こす・しめひのつくしやゆまて・ずもん
きとこうこ・学土のふ・鳴風流島なまつこ

ゆ世のうしはうの波のあきはねきてと
つふらうなれたゝうくてきまさしも
あらぬ遠よりくまき水もまやのかとおし
くもんやうそうもたらうちよりれあ
ちきなくやいあうめ春秋のきれもみちを
らもようそう真せしておもい出るよう
なうぼうちようそうろうはちうあう
きれさうんもほいうちわうてよ
ないいてせうそうれいうやきとうそう
ちうりうきてつきぼうさるはきうちけ
さようもえとくはんあくうめうん

桑弧蓬矢隊先定　男子別離何足言
黄葉黄花同不賞　秋風秋月共難論
杳溟放得一帆影　珠玉相携千里魂
樓上従今應望盡　寄書鴻鴈向寒温

天地のはほうはうはうはうはうはうはうはう
人のうれしもなるいうあけん
人の世のうれさうけうはうちへ
うれのほうもあいそうはう
ちうろりうるそなうまいはうちう
れもいのうをはひきれうあうは
ち月はあうの月のうけうはう

こころほそきこゝろもちしたりけり
やこ人ゝはゝくゝゆくゝすねの
まほやうにけんいまのしほせ
大くいうとの小姫の名をつけし
ゝゝて人をあんとおもへも
ゝゝものゝうゝくゝいているも
れとあゝ外うんめさまれ月
うゝ秋のなまきゝふゝきゝん
いとのおもあるやれしやと
すむ人いそこゝろせまいれしま
あゝてふまのれあゝのぬきまね

このそれはもみぢのぬきいとかはあれ
ゝゝうきものゝうきぬゝん
後鳥羽院御とゝきこゝ婦

同

元和二年八月朔日ゝ院乃ゝくいかやと
日にそゝくゝのりけるくおりゝ日は
つゝりいゝゝんやこゝろなるさてゝ
みをいゝゝいやしきほゝゝれをゝゝ
ゝゝのおゝすゝもをのゝ紙ゝそゝけ
つゝおゝひなをくゝゝゝゝのゝ決ゝる
しゝ六日すゝよ美やゝゝりしゝて

乃なくかもひやうしやうくし。山位さうぶ酒
のちいさうまうしあさまうしこと。とのの
うちうちうたのうれみつまし。のやうれ
ゐ御すまうれくゆうしを。まさんかおこ
もあう大文乃うちう。うちうくみさう
きうをかさ。きうぶつう酒をむれ
心ないあうう。きれん。むうう乃をあと
さうをあううをうれて。ゆうひさくこ
りうあうを老人。まくもみそるいし。
ゆうさ世乃たゆ。なをつ祝とうを乃た
まひ。さうをうをうあう酒をゆうしめ

決い酒うほりすしかかうかもうをはれ
うさにのるへきゆ。ちうしゆうさよ
うれ山人をいくつ人まかうをうれいと
うやうをあうれ乃文すを人かはく。
山ううあうもてあうをいしうい。かうれ男
とてう。音の動うりれほれあうを酒
たうひ数うを決うんをうをうう保とあう
わうを。清うやをめかうをはくさをれ。うてを
つうくあ人決かを酒乃世まいはあ似さ
先うを山うをうをうを山さをやまわをうを
かひくめつをう。八斗をやうんとをあう

もやいのもの所製うるはしくて
作りなんとすなるくるまのいふとすなるを
中くらゐのはんちやうのみとのうち
世いの大納言よんやうかうはうとせ
のくしの風にわらふも。かくしたる
つまをばおそれいあうりの文のそこに
かりのてまなびなりかくれかく
ふわ白しのうしとかはしいそなること
せいさかりなるをふかめるまの人。
いとをうしれなくて山のいう家よりうへ
て。あるをうしいの去れをうねりうぶそ

うしれのうしとうすしいうそうしれいるこ
つまいてうしてまるきん。うはく草木を
うるわうんうう
ぬかなうこと神のみるくなりうる世
しれうきを永をまうやうふて
うきせうれうるれ山はすむ月の
きうつうそうしれつ
うのをうしれるうふうきれる
しうきれうて
かりふうふうつうしと思いく
おさやく東てい林とそうこ

国立公文書館
National Archives of Japan

に十あまりなる雲のうへ
なりし月と夏の秋の
つゆけさいかなる中にうし
ろめたく人のうらもと
うらすてしあまをぬれてまつ
とくのうらもうらめしき
死生何異人愁昨坐清涼今一丘
荆棘無心埋玉體滂沱涙泗水如流

祖母の思ひよりてかくれのこ系

同

ひ系よりてけるくてうらもうれはのう

とうにいろうしをかはりかくてう
そのうをあらひとりふるかりまいうん
これを若しとをるようんをけういをかて
けうれはうろうしい後母うまはかふゆる
叙事伏しくしうりうりうひ孟母うこの
陳とうへをるみをれをまりにうれく平う
若しの祝の祝ものくまりくしかをおをく
いあうものをれをりてをふれはりに
ようりて友時をうまうれん春をなく
すりいうをを武出のやまひうまりあ
江文の英華の三伏のうりのうれはいはう海

ちとちかうさ・かあの秋いかがとそそのさ
じーろ秋なりてめ・ちい山をちう浦ぞつう
よよ月をそそそ行かれ・山ようひとや
そちかあちち秋ちりのようなひあ・今まん
いく光ねちいひ・ちめをを山人の四
ちやとをそそ・ちいとうこ・ちいく宇
ねりる秋あれるう・すさすーやい
の始ちりをいなりかりまてひろい
ちるーこちるなやをひう・俳よ今くを
なりをくつるよるれ秋十一日乃月ことに
をそれそそ・ふれるるるさりのり

ひるんちをあるひ・とをのうをまくいるを
ちををちるれさちう・ちりのうくと
のうひをれ中ゐをちうつりまい
なりひ作ふ秋かりのそをちうを
やりをこもやうよりうを先ゐのくいひく
れとゐ月ちり宇ちに女乃やうをちり秋
いうちりく・夢遊乃を指標をやうを
ちのちく・ちすりにいるををれりくを
をの感歎ーをくを人蜻蛉世秋をいるれ
やーちりをつくーを女房ちりをのうを
りゐちんを秋のりををそ・なるをわを

おもしろうの物語しそしてやうしてめて
さてとりてさうんまと祝ひそ
よおりいのまに終日会やうしえそこう
ひなくうれしるのうようまれふつうて
そのもくあうそくかしはうさて舟長を
ふ雪まとりをうぶひるれ物とれうを
えたかうひえさうしてしくよ芝のやうう
百を四まひをにはしんるまをえれく
三命うりくへさうんちうしふんと
やあんしうあうそよ代ものいのうたう
ちはうそなはいさまうんと人のまは

かいうへしはこうを心腑よ拙寸ちくか
そのひまとうう成うう筆にまを
あはさうそうしとてうく
うはくやをとさうれはかは見て
さすうまさうをうはうを
城油ものうんものうたいうや
はうをさうあ毎をの寿
はくあるをうをあはまくく
もしうの寿をうくく
多家うよ勢つをはみをう
つうをやしのひかはくい

まちひろめられてありあけの月を人の
うらの月やゝかたぶくまで

父二位法華のかうの時のこゝろ

同

おほれかてこゝろもかなはぬみつうち
うのほのふきかへすなみのしらゆふ
のしたにくるしきかなしさをのゝ
かうのやまをわけまとふ

しらくもとこゝろ
とおりそんかのゆくゑ
せゝらくかうてんをさしてつきぬとの

ゝせかなせんつゝのもりをうゑて
えけしをはくるをうゑをかけう
れつゝゆくそいをすぎ日おもやうし
まちつゝりてまちてまちしまれるやうに
いつのまにこゝろをまれしまのしるれ
ゆほとちいゝうゝをとしてをかてまれ
あをかをまをもをうゑいひをれを
かうしんをうゝをくしをつれをおいうふ
うやまをくかいまをまをはまを
ひつゝまをのうゝをけつふまれをのの
うひをゝ七月廿六日はまをひうをはふ

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

のりうちとりもちふちくとりなれはとよ
ちとせのうちのもとりもちとをわたれうしかやや
まさうの人いうちのうひうさまうりう
やまのはなのはなくいかにはるはのの
はるよ祝ちうりいしもあるてうしけれも
やはりうちうちをとをとれわ家やうまをひく
のいうちうとそまりうれとりやうて
いうちをまのうれのうをうしらつて
いうちうれうちくすあかもやの
ちるうちものよいうちんいるうとうえよ
れんうはうちうとおちうはけうて

うちうてるのいうちうしたけまをしこと
れて花房下のかのまんすこのいうちうはる
をのしはれいうてのうをうくはくく
しうはるよたをそやうがりまを
うちうたけくうこはうよはたいんうう
かはうううて一うちやうんうをうく
和かけうはるようをりまをそまをうう
をそうちをやをくはうんというをそうう
かうはうをうるうのはうくうをうをう
いはをはうてまうりかりはうとみ
ををまうをうられくうけうをえを

一度のらさまとあこまやよいと為かし
さしやたりとひしをそこまとそこまとぬか
のこまとそれまとりそおくこうをそ
うをそくそくそくまふかう
らんうをけいしたいふいけまこしとこそ
のいこうをいしたうれうかをとうとよ
ゐをたうをはんこうをはをこと
いまこのろかくやをまふうかりまを
まをろまをはんおいしゆくうるいつん
というるをこいそんとかをえこを名は
ひいしはかうをうけるか

ちをこいたをのまんこうれよん
ゐじいうをはこるをふまこの美や
ちんとかをいつひはやまちゆく
やうをかはふをまこいうをいろ
なそうくまりかまけのいこうをいろ
ゐをいまいこうをいそおねと
うらたうしをやうをうをれちかよ
とかう入をくおやしをめうこうをを
ゐをまをこうをうしえをいとこれこん
しのかりまいをうてうるこのつふえ
ちうしうをたうこのまをとをくとうる

国立公文書館
National Archives of Japan

[illegible]

[illegible]

[illegible]

しなれてゆくしるしのあらはれくるを
ものとやうくちりそめてちるこゝろ
うれやうよはくそむとゝ家しうんして
とのゝえちのやうしくんちとゝろか成へく
れわりてゝちはせとのゝふかりん
ます。ぎい泉よりいのれりうこのなこと
祝はかとまるうさとちくく又背のゆくへ
いるくんくんもやうけるくのくれ春中
の二月ゝとゝちのゝるゝこれいろ
ゆゝそいしてもわまりるわゝくんをそ
くいつきい定家のいれかゝさわとはるの

ゝりやいくるゝりかさくくゝつ
こくをあゝさゝたまるこゝの
わくしゆくようゝはくゝるくくゝ
とのゝりくくゝこなるくくいは
ゝくくゝのくくふくくのゝ
ゝゝふゝゝ世の玄秋のやゝ
かゝくくくくゝくくくいんくゝ
つのくくくくくくくくくくくゝ
くくくくふゝ世の玄嫁くゝ
わゝくんやくくわくくゝ
くのくくくくくくくくくくくく

ちゝはゝうんこれ来やあな
うへとくとかほ[illegible]
ものしいあ[illegible]
め文まして真わりてかほ[illegible]
ひ[illegible]ぐ人のなをじけまな
ま[illegible]侯頼のあてゝ[illegible]
ぬみされてれわ[illegible]
さ[illegible]
わ家わ[illegible]
り[illegible]
ほ[illegible]

れ[illegible]
くの[illegible]
せんぐ[illegible]
わ[illegible]
ク[illegible]
祭の[illegible]
て[illegible]
り[illegible]
し[illegible]
う[illegible]
[illegible]

中くものうたかしらはたてひちとものと
くりめそれしうをちうとうたまにのはくれ
しりうさんのくさ西よ生ふ所えいうたくく
つまくさやうあるそかしうあ孫うてかうう
うんあんあるまし向氏うはの文のそれ二の封れ
ものはうてそれしうにうてとうくん
ムにいや西うまんうの山門
のすあるみうのうは西うつ山るの
まとあうんあ西ん家の文めれ巻くぬうう
はうまあうしくやむうれんのかうと
ほえてうくかさうあうやう

口のかひとのうとうあうかし筆かう
ていあはうあにうあへく
おとあ南の海よりうしく赤人のうはう
れうしうり海はよりう家れし
をうい むつしよ入口の水よりうう月れ
ううをうそ蝶のうはいうくくと
ほ姫のうあうまうるうう人うにを
廟菅氏のうれ文相ううそれ家
のあうまうれはれそ國の月うれい
あうはうれの碑の文つうまくふう
やうくく相如の長門うとかしふ西

まとえぼしやの四さよう
ひのつくにさまつの都府楼のうへ人うつの
文よのつぼねなれくはさあり〻そめしろう
とちやしそのほかのかうさとうじこうれそ
ひとりあめしとのうへんをもけるうしぼさいく
うこうさうせをもしたまえひ水上とする
うしとうとくいまに家とさうあすとうてはの文
をもう次とのうまて去道ろうけうや
日れなのあるされをほかせうしむしまして
いうるうちうかりしうん・まれりれ門の
戸はてとてうさかるの家の程のうとさう

置よくせうもりくをいうみうさて世よ
かうるうるまうさろうりそうめいい人の
とうかや京極の黄門いうう位のうる
をうていうきの人うるうん・はうさうるる
ちうくあやうさしのかしらうとうへ
あまりとのうしうろうろうのまう
世人うくまふうるをのしとうしはるや
わうん・このひあるはるくいうにあくも
のううとうしうてうつかの文れ中の
うさうふをしうしかおいかりやうるうにうち
わうはとあうそいうるうのまくこ

十あまりのすがたにいてゝ、紙帳のもと
にたちよりゝゝ、もゝとせの花のえん
なるかをり、雲かと見まがふるひまもなくけの
ゆゝしきまで、秋の月はなをさゝぬ袖にぞ
尾花が袖のうへにぞ、ものゝあはれをもよほす
ちゝ、人まちがほの声ごえ、うちうち、ものもて
ゆかしいじょうにぞ、なたもよりあうんとぞ。
ちんぷ、とりて日ごろ、ものもとめ、
まれまれ、ふまれ、袖のひまもなく、
ひとへぐるまのかをり、ものゝ
とゝれいとも、ゆかしき世つきれ

着ものゝ、ゆかしき九よりはひて、かくれはら
ぬ、ものゝ、ものゝ、ものゝ、ものゝ、
ものゝ、ものゝ、ものゝ、ものゝ、
つまで、ものゝ、ものゝ、ものゝ、
人ものゝ、ものゝ、ものゝ、ものゝ、
ものゝ、ものゝ、ものゝ、ものゝ、
ものゝ、ものゝ、ものゝ、ものゝ、
ものゝ、ものゝ、ものゝ、ものゝ、
ものゝ、ものゝ、ものゝ、ものゝ、
ものゝ、ものゝ、ものゝ、ものゝ、
ものゝ、ものゝ、ものゝ、ものゝ、
ものゝ、ものゝ、ものゝ、ものゝ、

成れ門生のうせの後後ろあるべきを
さの出れとをかわうまさ成ぶうて
うい出ひくどのくに出ちうさ成ぶうと
もうよまうていうこうけうをおゆうう
りまうをうたう成ぶうちいあて六ちせのわ
なうとのを中ちうしうちのうちあうつ
うるうちうさうう成ぶれうちうしう書
のあれうちうてつるうまうさうるやるへ
し人のう成ぶ関瀬ひまるうちう川れまさ
をあのうてうふとうちうくれまうり
うれうはるうまひなまうわうう成ぶうのと

ちうう人しい悔しうこうちうう
まうてあうよううるうそうしのうやん
うううう稲すうさ一村松ありうのうちく
ううれうく
うう家うあうれうしの稲ひうく成ぶうれく
一村すうう人うちうう
ものとう成ぶうれ山ちうれうう
うれうよしう成ぶのうう家
ううあうれうう成ぶうう文うとうるうれ
ありうあううううううれすうう松この話
の者ありうのうう人の者うい

やうとも

[illegible]

[illegible]

[illegible]

可悲一夜文星墜　秋風俄摧藝苑英

又

三十余年西与東　往来如影伴春風
交情未及駭蛩叟　空作挽詞聊報公

又

天夜斯文否　遊魂歸太虛
威儀憶冠帶　容貌曳衣裾
不用封千戶　所貪書五車
法燈雙袖滅　何日又能除

わすりがしやうけのトる〳〵
うつりてゐたりけ事

ゐるまいしもちのをとゝ
ものしられなをさいりゝ
玄育法師とゝ

玄育法師ハ　ゝ　八十
ゝりやうゝ
ゝ　ゝ
ゝ　ゝ
ゝ　

と。ひてうしうせとを今一度の対面と思ひつるに。かゆつるくいつるさ事のうれしさ。ちりてちりて祇園しるしの。深草の堤まとうりて。人しれぬ栖りきけりの後。松の植ゑ竹の垣。うゑ西陽つるかりやうの。宮ゐ月新さて入れくれ。もりの人とをりいて。行幸の事ふるうこくかりてくつるしやみ。ものそう。今の中くこそうやく。古場りしてもれて。まりうかもいうかりね。そてまれやまと。とを。沐世ちいつさうつくれ。

のみと。世氏かさ民とやうるるし。こ氏道うる氏。ひくいろうのを乃家ち。うちちうて。ものをる氏つりるる。いちうよ。そさこのうすきれこれを家。うさ。なうへしされて。かりいるとと。やうんまそ実しまに。に道乃ひうちち。みこのつ氏うるるる。和歌のうるみ事。いうへ。ものうくのうくいやうこのをるる。ひ。家の氏ううと。ひりる乃ひまじやと。うるる実ゆ。中にも。氏系れまちうみち。東格黄門の一うれ。ものすくこの

法華経をよみたてまつりて
ものぞ思ふにあはれなくなくまもるやい
ろ八月十日よりはじめて定家の
四忌をつとめたてまつりやはり
ものせん。宗伝法しかきに二月のとまりに
てうしを故つきの月のはいあるとや
ちかい給しかくなる銀堀ものをさて
なのりてく
かくすてきをのみををとも
あるの古日はよしの月うの家
のやしきうれ行くやいちの立うり

行くいさねこの毋人のうれを
毋の上の山とうのくかいすれすの茶を
えうくびまり酒いうきをうねとうまを
やうりけむ川の水をれさりてこうこ
よめうるうこうこうりうの西のくかりて
しうこうをれはのあをいとうの芸の山
花をうこ妖の山より紅葉をまくく酔うを
芸かりうう芸人をけうをいそうこうをさ
うい遠うるあり。まくへうりうる人のと
れりしくいうこうこうは山とうこ老
らくをうをうをの世しうりうこうや。

と斗につくくとあれの東あれ祢美に、ものくん
れうもてうえくてちあるものとをいりと、音ア
世舟器のこう家れ下とかいやかい袖と
あけくそこしさもあるほうれくうふるく
いいすてしあるこもとさほくかしいろ
うこうもろいを惠いしうこうを美者と
よあり澤とうこしてするり菓とりくく
してういるつ使あり。流いよ寸て
うふいとかりくさんくりあくあるろ
くくさこうを祢に方に世りあるせむ
すくなるこつくくと、ものくかまれあるくく

い。巻之ういひせんやまこうこの道をしは
法市ものくしり大樹のこうりよつくづと
十のつうこに海ゆくにふれこ東すふ
いあくと、ものくくの道とやそりくせ使。
つあり忠とまこうしこ代のこうしり
こしかこうてこうて大江山いくやの道はるく
やこ天の橋之乃こるこ、こるくの里にこ
ふかりしかやのこうこうやこ
こうしこかけい道のこまこ名々。田こう
こくこ心の泉こまころること水こうかを
こくよりくこまれこうこるくこうとこあ音

の一聲なきこゝろのふ風情をめて
ゝ山よりまゝふの乃こゝろ山ゝ大内そやの
山乃かゝとふまゝひれこゝられ遊よのそ
ゝて人とかゝろし緑しゝれゝ久こゝの
氷のいゝこゝかゝて本のゝれゝかゝ乃ゝ
ゝゝん。風乃つゝこゝてゝゝゝゝゝゝゝく。
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

のりふしてあはれまれなりしかはしてと
なりて八重の石とやなりてせ
とんをうしくんいきてこの世のこの世は
ちくさうるる筆のわたくれ
ちちとしいるかつるなりとおもひすこと
なれくとゆるかなりて
いまはんしてのちふしのいてと
まくくわしくるる
かしいちちふりいそよきはこと
これよりのうきのちりく
掃葉丹後ちとい之之之

朝の家にしるすて。爰もちりて世のわり
さはいつかはちくかちはせもちち
りはいくくくちちくくるのとのもこ。
うやまいとあれ爰の尊のちち宝とれ
りこうち出のすこよりくくおさは鴻
ちちのくくく

[illegible]

[illegible]

[illegible]

ちる中にさそくをおしまんかにしるしと
ゆめからしれる世のうつゝ面にうつるやうな
りまもひあるとそうの袖の涙いまかし
とのうつゝに成頃一首又言ひしりうつゝ
いくゆるを頃し

三十八年　一夢茫然

無忘来去　白雲青天

きさらぎ

むさしの花のさかりにうるはしう
くるのうちわかれの涙の
やうしる侍りしかはて更衣と

たちのうりんそそくいとをしさ
うとうふかうちうちうりせんく
わうさこ世うちうまして去日はいとあれいて
さそかうそうちうとうのうちとうとうれく
うるのうちまかりしやるし胸つるひ中ん
去の涙うふかくわうまいい中くなりいそく
きうとうしてムの月かうのかにてしうあ
ふうとうのうちつしやうふとうとうふて
うひめうすまふくかうりはえ月日うり
かうてかはうるくうとうめうるよかうし
ちうあうりはうまくかうりうとうを花の

池すこしそのかたはらにまつのくさのえのあるをあるひとはいとやはらかにしてくんさうのかたちにうつくしくそえうゑたりしをやがてとりのこしたるうちにそのくさのつゆをうけてはなのかたちにうつくしくもてなしたるをみてこれをもてあそびけるに舟さしよせてつみとりてもてまいりたるをみるにいとをか

いかにしのぶもしるしとつるよりもうけ
なき人をうつる空の白雲
なよ人とうとうとうと

のあけぬしらぬおもひのをりをもとめて
こんそをうくへしゆるすまろ人道去ん
わすれさるる月のちかいそれこの月門
をるとうなつて或を夜味乃部ちかいよ
ちまを三セのをちをれをうさてそなん
のをしいををのやををちををのををを
をれをちをちをを本すを乃をををれを
をををのを美をををををををををを
をれをををのすをいを雲やをををを人を
やををんをををををををををををを
てををををををををををををを巫山の神女

乃をををををををををををををを
とをををををををををををををを
ををををををををををををををを
ををををををををををををををを
ををををををををををををををを
ををををををををををををををを
ををををををををををををををを
ををををををををををををををを
ををををををををををををををを
ををををををををををををををを
ををををををををををををををを
ををををををををををををををを
ををををををををををををををを
ををををををををををををををを
ををををををををををををををを
ををををををををををををををを
ををををををををををををををを
ををををををををををををををを
ををををををををををををををを
ををををををををををををををを
出丹のあをををへ本のををををを

七夕に行ひのいとうとましきまれなる
中をゆしとそれにたりとうとむるされく
いいとやすくまとろまをほりわびぬるそ
こゑゆとまいきこしほらやわるねとま
すほゆいとうとおほしそまんすとうとまま
ぬるとそくいたわまれぬまれぬせふし
ぬまるれるすとうとにられさいけよくく
うれてんいはまをを老の命いかうひ
わしををうらしうとうるるとうとか
いしとあうとうとのうるおしくうとつうる
とうのとうとうあ分ぬるうふをとの度

とを百度うとそうとうとうとのかうとうとおいか
すとうるかうとうとうとれとまうをうんのうとう
恨をうとうんぶふわうとうんうとのいまれる
をうとうわし食をおまをふるうほうをいひんふ
れ古風ひとうとうとうとうする歌い
とうとうんのうとうるうとうとうとうとうるか
うとうのうとうとうとうとうとうとうとうとうとう
うとうとうとうとうとうとうとうとうとうとうとう
の行かうとう浅香山のとうとうとうとうとうとう
うとうふうとうとうとうとうとうとうとうとうとう
やうとうとうとうとうとうとうとうとうとうとう

今宮の祭りとて、ちかきもとをとこ、
はまへりけるを、のきつまよりてみれば、
しるくかりけるかほにて、
やをとこ、ふさまかしくおほえて、
のかたちもむさとあらまほしく、
なりしとて、ものまゐりの人を
鈴ふるさとをとこ、
ちやいわらは、家よりをとこ、
もてなすまつさきに、ものいはんとをもひ、
人のこころとひとりのをとこ、
云のたまひ、ものくいたるをとこ、

ちすてゝ、ものくめしたこゝろかつるを、
あのむとしをあはせ、
ろうれいをもて

そこうんうわたし森のかしら、
いつをしほるて、高の毛こゝろと
末のかゝとやをれ、末のまりて、
中つゝこの衣をしれ、
わるとのやをなるこゝやうて高わた、
なるくふふの法しけふ、
さめふわりてをこゝ人の世中、
てまゝろくこゝろ夏をれ

けりかうし人ゝそなれしもとけ毋
ほゝゑ者をもやてゝえん

うゑ松

同

屋えくゝ入おゝとゝふこゝろれつくゝいのうすす
けゝ人のゝこゝろあゝさわゝるゝんし。この君ゝまゝ
ゝこゝ月ゝゝて毋おゝすゝくゝゝつゝふゝしゝけゝうゝゝい。
いゝるゝんゝゝたゝゝつゝもえゝいゝゝゝゝゝゝしゝゝゝゝ
今成ゝゝゝゝゝゝひゝゝふゝゝらひのゝゝゝゝゝゝゝ
ゝそおゝりゝくゝゝえゝゝちゝゝゝやゝなゝれゝいゝゝゝゝ。
ゝゝつけゝゝゝゝゝゝゝゝえゝいゝゝゝゝゝゝゝのゝゝ

ゝゝゝ者ゝゝゝゝゝゝゝゝ

[illegible]

[illegible]

[illegible]

ちとせひとせのをれば、これひとのいと
るわまくうそあれてそのしたもそいふ
せんくしわらもはつしとひつなもそうち
かはしくれしのさとれ梅のうえたるをふと
めのまいかりてこうをしわしい
をちらくひさしをしきもそうそれ
ふをちわもをそはうれるを我うえわ
すがはゆとばはのはれるひとれな
ちんさしさうかもしそうをんをうち
しさるはすひうれうをのをひわを人
なれとさすふかつしすいわ次二月の中

の五日ゆ、いまこうをんしいとうれ
人わまとひすくつゆのうをもとんはなれ
てうをるぶれとうをるきもをひをひを
くはとういてよつをいしくをれをうけ。
ひうくをもつくしうるのちくわけを
やうをくうををうはいとくをいるをわを
ひうをうをうをとうをむつくしをうを
おすひつをうをれとをるかいいちはけんお
をれうをのふとうをもわんうをいうけうを人
をれうをむしぬをもうをうををいうをる云ま
えををふうをくをるうしををとわけてひ

しくさとなりぬるかぎりなくあはれ
いけるくるといてさほしきものなり
うちのうちをやぬいてみるまいんと
うちうれいつきぬいくつしるしをふるそれぶん
やうようえをてしたのわやふるけせそ
まつんいつこちもやすいゆこやれし
まこやまひのゆくわれくい辞世のうたろ
ようやしとこととあ成わこわのえのをなな
ちすおかてそちきりとふうををつしちれ
ちふふおうんんなのきるるるしいく
清おううきりていすれもしひとくわん

ちんてるうちをとをおこてはさ絶てんすり
をひをすこうちけうれてよとて
ちやすくおはをこのひのとんいこちりくいと
もおこていつもまちくてわそいしつて
拳白雲のをしくるとるるしひ
うちをもむうるれくおくてしるるりうを
うれをしこけのしこをもひ絶人業云
ゆうこんしと拳いいこどちひてねひいまい
こちねとめとめてすよのなしいやそつのま
ちこへこふいこうきるとてよんんち
ちこちしるうるれこのひこものちわ絶

ほのぼのとして初梅のおりうるさ紙人のすてうつ
るさくさるよりゆゝしうつるものとこそせんと
花をんにさうとさくさるとうらぶるあてさやさき
まうう書のゆゝ来りしぬまゝまゝこと葉と
ふーのさうくさうとうあつるさき筆のすさ
んもおりれるさ紙のさくさとけいも毫の
さうんもんさ成へしつゆふやさひの中よる日
さうしまうるのさあまりしくやーさふみしう
ふん書云さうくとうの堂のさうーれさあるとふ
まさなくいるむとさうてさう老のいうう
うくくつれるし今禅師名つけて豊臣氏

春光院萬花紙三くいふ自枝いさくれともいつ
差もあるいかなるさうし相如ねまぬいとも
しるけきくんこうやゝ杜鵑こやらんとい
まねいこのゝよへてねぬとせよもるめるん
いまさくこの戸はのかたをうさうすく
ひさうせるもうてひさうつれくさう
わさうあくさあるよわけくれるのひとさうつ
方のくれへさもまれさいつるんくれきあ
まさくるいまやそ母とひさくさうなひ
てむすもくせくいふすのよてりとひさうも
へくるくいうくれわくくさうのくいうんい

ないまくるひしりうんいうおほせをかうむれ
とうろうもやうもいつらさてしあとにて
なほさふらいんしいまはけいいの世をうけえ
しもおほえなかうまもれ衣をかれ
ひろうてきたるこのつもしうるようの事本
池のこすまひとうもおもしやうしてて
こうわうぬ所よきこうんこうとすせやうこ二
十首のやまこうよう井寿の餘哀とうれ
しふれう音信よりそうるいなうむやうるる
こうこうこうたさうんなれ筆よりす
うれもうんこうるうんこうんこの夢

まこしかくふうこうのいせん
しをとふしこうかうあ所のよ
ぬうまくうのあうておこそい
いいんをこそをふそうるこいまたて
たうとうりつ東ひのもうけ
とうれこのまういつうもいつうこく
ふいい七日うこあうけうれ
東よりつうやうこおくれをいうこう
こをのとふもうるこしやうこく
こうあうつそのとこいるうこうれよ
かうこうそうやうこうもとうけん

そのまゝをうゐいらつゝさうれ
人をとゝれていくゝ人をあ
まれと恋とゝとうさんといとうゝゝや
ゝゝあるゝゝ世のすひれしも
情なしいつち流のゝゝひけん
まりひしもの人なるれすゝと
人のせゝーくゝふのひのさくゝれ
ゝれゝ中くゝ世をまちゝれ
いまゝくゝとゝとゝ町ゝゝいつも
るゝくゝすゝゝゝ伏ゝゝるゝ
いけくゝよゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ人と

世ゝれゝゝゝゝゝれゝゝゝれん
ゝゝけゝゝゝゝ世のゝゝゝゝひて
ゝゝゝゝゝゝ人ゝゝゝゝゝれ
た人ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
人ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

[illegible]

[illegible]

[illegible]

人いまさしてぬやとれ
とまれるやうけのこゝろをるもふ
ひをし

のちの人に一ぢをまさしてをの
やうなれやうちぬ春の
とけうまつわくうまれいるこゝ
ろひのやちうかこゝ
いまいくこゝうんはのメしも
なこゝ人こゝうつくこゝ
うつくもこゝ春とをこゝうんこゝをこゝ
うこゝ人とわうこゝ人よせし

春こゝをなれこゝをゆかいこゝ
ふいこゝをこゝんのこゝやいこゝ
こゝうれいこゝうこゝ世こゝうこゝ春ふこゝ
こゝをこゝをこゝうこゝをこゝ
ひつこゝうこゝもこゝうこゝこゝをれ
こゝ春こゝこゝ人やうこゝ世こゝうこゝん
ありこゝをれこゝをこゝいこゝうこゝうこゝをれて
こゝうこゝのこゝ面のあこゝこゝこゝうれね
祝こゝこゝい世こゝとこゝうこゝてこゝうこゝ
こゝうこゝもこゝうこゝこゝうれこゝうこゝこゝ
こゝうこゝこゝこゝこゝこゝこゝこゝこゝこゝ

[illegible]
[illegible]
のまれぬせぬ神ゆゑしらで
思ふひとをしらでいとせんなくて
[illegible]
おもはれくしもおやこらふひくらいのち
はれてやしこそさわもとのるば
[illegible]
おいそこのてうしの二条より
とよもくらもわふるもれぬ
のこふふしくわれるられて

わかぬやとわぬまぬまもむかしやも
そそりそ人へとしつまさ
まさ人とまもとわすふ
[illegible]
[illegible]
おひくくのこのそれふいつまそと
わしつもせまるしうち
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]

とよたるうれおりてうきのやこれ
し老のこゝろとていふせんともきす
卯月の首ものもうるあるかれくさ
おてゆとこわくこゝまはけよりたれい
せそれあをこゝのけれこひけて
ゆきあるこゝのいとあそもあこゝもあ
こりせそれせとかめんてん
池のりうなしわそひわこゝまひ
いつこゝゆあこのこゝおけのあれこのこゝ
こゝすこゝさこゝあゆこゝれこゝわひこゝ
中よひのようこゝ梁とあれこゝ

よすこゝとせてゝおこゝあこゝひこゝ
わこゝひあんこゝこゝのこゝかんてなこゝ
こゝれとけつものおこゝあこゝのこゝ
こゝわいけをこゝこゝあこゝ遠梁れ
こゝこのこゝんこゝこゝこゝ
こゝけこゝけんこゝこゝねいけこゝい
こゝようこゝこゝとこゝこゝれ
けつこゝこゝこゝこゝれこゝこゝこゝ
あこゝあこゝこゝこゝこゝこゝこゝ
なこゝやこゝこゝれこゝおこゝこゝこゝれ
こゝなこゝこゝこゝこゝけこゝれ

ゆくえもしらぬ世のうれしさ
なくさむしくそもとんん
せめてまつのゆくすえ
ゆくすえをかなしみ
世をすてゝやまひよりみてぶかく
秋とゆくすゑやいとゝしく
ひとりのこゝろのいとなくば
ゆくへなりけり
いまさらに声とゝまの島のゝ
秋しらぬとてなるゝ
百ヶ日か

いかゝなりまさりあけぬよひそ
ゆくすゑの日かずかなしき
をとゝ人といふるとなるこのいとん
あくれば日又日あくれば秋又秋
結之日
萩に紫ゝもかゝるまけて
秋のつゆとよみあるをけり
ゆくすゑのふるさとの人の男
このゝ人しの萩の花
萩の葉のうちもそよ秋ゝあて
ゆくすゑのる人のまれち

ほそき灯とうあて
独のつゆもやすいをとうやあとろ
ふる人なかもしんすのとき
ちむひ伝のまんひとりしし
そもまれとかとうとうとうとり
やうく美村のむしのすもしむ
のうとうとうあるうしくるさいつよとうを
ひ人のうとれといひしすのくねそしまれるう
世ようれいようもうとうわるき人の
とうとうあつうすむしのあう
あとれとうとうけん人のうとうと

かとうとうむけるすむしのこん
美のあいつれわうれとうとうん
わうあるく美とすむしの美と
とけいまひすとうとうとうふうとて
とうとうとうるうすむしの美
いるつまれのうきけうタへよ
うとうあるきやとれうとうの稲妻や
けるき人のゆくあるる年
とうとうとうとうあけて君かれや
とよるつまるけてとけん
いねそよひとう月とふとうとうとうとく

なるまふのさとのうちにもわすれん
うらんとなげきつゝをぬれ
ぬ袖のうへの月
いけ方いつゝやうとなげく
まつ月をなぐさめそうすめる
このあるのこれはまそいうきおうう
うまれ月とよまふうれ
わきに書てまりをおふ
いまうれなみあてしとすん
まつうふとそうつやうとうん
あまとわうう人のまりけ

ほのかなしあうちうちのつゆ世ふ
まさんうちうれいつまく
雪のうちけう日
とうふりしんまんて消やすき
月けの雪とあれそやふ
まさんとひうう多いくせも
わうしうそうう庭のうう雪
このけいそうえにあれてううれふ池
のまりふゆうさんいうつれうやうさ
人のわうせうけうひうやうむし
まれなのうひとうんやに

なくこゑひるまもこゑせいし
けんこをしらすこもりふかうしやや
まりうせとこゑこのはれ声ふくく
ゆきいまきすれいろこをもよ
せとそむんなしいとまこをこと
ふくいてるまとかまらと辛れも
ひくいとしのいくよ育ろう
世のうさよいまうまこもけこと
くやまーけくひつゆやうまー
らのうれよ
けうちこわいいくこのうれて

なけうくいつかとーのうれれ
詠一面忌長年
いうくかけまれ　けうこ東　こそ月見
ゆくくわ　いつうこ　わけゆと　やしれ中れ
ゆくくわ　いつうこ　わこれれ　わこ法の
お日ふも　なうけと　うまれ　まや内ふ
まも実　ひくこふ　ーまよ　いまわこつ
うくまわ　人のまく　こくこる　やくむれ
ひのひ　佛よつく　こくこる　やくむれ
くくわ　四のまな　ーもなす　こ長こも
ゆくまゆ　まくこ　このーの　くすの実
くそな也　くまわや法　ひくれく　いのくくい

国立公文書館
National Archives of Japan

[illegible]

[illegible]

[illegible]

うつしこめうつしこめのこすいひそきとこ
ろるこころわわけこころせこころ枕を
こけてこころにこころ見せこころれこころ
わくこころこのこころのこころわこころれこころ
いこころ浮こころくこころとこころしいこころ九月十三夜
こころ豊講雲こころこころこころこころこころこころこころ
こころのこころこころれこころこころこころこころこころこころ
人のこころこころこころこころこころこころこころこころ
こころこころこころこころこころこころこころこころ
こころこころこころこころこころこころこころこころ
こ

よしはむやまくびのうへふとうぬ。
行きまもわうへとるとよりてのこれこそ
いへ愛しもおもひわ涙かうちわうきさて
声く今もここゆとしの月を母のすりう
のきわりしそしややすあすなれしは人
ひとりのこるくおほえてさいやふきうしひ
こが宮のうちうろすけうりあさゆをて
うれもひいつしけりわるうさうを髪のま
ふけらるくさしけなりはいつしやうて。
いまてんうや次人のうきれうくさくく
おふまへしとるふこうちやん彩ひふ武

くけくうとうかくうとうとはは武
とやにおさむて彩のあをぬりしへく
いそうあうれかのうとけるをしうる
ひくくきうひけこうものかうをて
るむつうのうちうおはうてまうも
て。とし十八うあういうれ武ありう
りをつゆとれややすかりうしう
こうはとうにうえうひうすや接を
こうはうくひうわう涙
うう人のいまこうこうしいそり
おおもうるやれ明かの

なきあとにこれぞ形見の神のうへを
このせかいをうみかへうり
来世にてうんわるくも生るゆえ
こそてうりに此世のうきせ
ぞ人わをえ出家はうしてうり
うりにいくるすべきうりわく
さえんもかとさけのトつゆ
そこいうこうかそうあらしあはゆき
紫宸殿ゆきまちて
おすひしつをとけそうりうけう
八月七日ちうそうひてうちうり

うしいとみつういえまして日かもなと
なくせをこしつひしてとりとれとはは
つふさいたうけやうそうおうさうなさ人の
ひしとて今人のまわいとうけく父しと
おうこうわうる笑うりけんやうひしいる
てをうみるしうくつ稼ぎうこのこ
なをこ月日ものけをうあ月日ものてこあう
しいおうこうまねをこうなをいこうみうこ
八いかうこうや心霊しそのひこそまうり
まうれこうまう日こすをつうりあんへ
うこうまいひて家ものけ日つなこさ

やうなるこゝろ。ことわりとは。二月のてりかう
けんとしもはじめ。そのかぎりとてうつ
雪の花ちるとぶ雪うつ木末ばかりとは。
もろともにうつるこゝろ。ひとりけぶりと見ふ
ちらすひぐらしもわが涙。袋の兒
の癖いさかりとれば。月やすくひとりて。
みちやうなはさはりてつけ手をいなびてと
こやんこゝろ。くるしくこゝろ上憶ふて。
金をもとめれば貴ぶ。ぶりもちうやいひ。
市原玉と強をとうるこゝろ。
やうとふなけきしのばれてうとて

ぬ袋のうそ。こゝぬ道ゆ。
やうこゝわ。こゝとをこゝ。
もゝぬ。ぬぬのこゝろ。
市ゝくこゝやけき月の
をなこゝ。
ひそかもこゝ。
なりひこゝ。
こゝぬこゝひゝ。
きゝれこゝけきこゝひゝ
ひこゝあれ服こゝ。
墨屋のこゝひこゝ。

つるもせてうるりそとう苗長
うつくしき人のことはうみい
なるき人やつくねのひのすくよ
そ面のまさこれよりりをを
わうてふ名ほうそはうそ
このふ人とそすなりけ糸
日よそ人てすのつ見るそれさつ
美しそうかとうをは
とのはつて神とえうをもろ山
ちくれうろ乃様はいくしや
嗟々與子欲黄泉寸断愁腸胡得全

魂魄招曾無入夢唯徴恩愛感前縁

きぬ〳〵し衣

同

八雲〳〵出雲れ出いずものとのこしひ
の川とわくれくしけんもつ
しけ〳〵いとうのこととそうと
つすきまれ姫うれそくおうく
ぬすひやの面不うんやれ代そ吹
くら義のくくもの出ゆふひこ
ろくかりていくゆうせうこう
あつそうそうそするけて今ものは

そなたのつとさかふゆいりのまくらよ
やうなれおもふらんとそもとをあさはわと
おもとしぢくらんとあるとふるこころをあくしふる
ねのさかしかふめうすくすきをいとをいとをんよ
てあくをなりこりてくんはのうわと母すんしく
つとりのくるるちのつくるものうとおりひとう
身よりのうとりのなりと書くすくさるるみれ
おひさるるあふるるんと思いふさめすしてや
つとあ月日よりつくきあるる為ら知りいてて
おきて数しくてきさけなりしちふ
くくくくちしおもけかしてゐ日いてあ

つとかふかをわふしといおすけかるん
ねひりこあるそんもあらるかきつされ
さるをるるいすかるふくおるとれ
おはつるるれるつひしやあひるえる
のるれるあるわるはをあるをつるを
るるとつくしえるつるれをるもるか
るるるのるるかるまして久るるの月
り向ひていていけるるるるるのるるく
ておしみるれをいいけうつしわくれ秋
横の月れおりをいいるるけるわるまる
いるんやかるもるれてをいるの十七日と

国立公文書館
National Archives of Japan

しもさうなるうちにてちりぬ
けり

かとをみやもとひんうそこの
しのうへにうゑまはは
こゑとそなくこのゆふくれにて
ちりぬ

かうそみをやまきとうまに
こゑもしらぬこゑをもとめこゑを
わすれんとおもふこころをつくされ
ぬ身よそうものをもとけら
やしのけそうゆ侍てのゆんとき

しとうれうまけのまとてこそんとき
のこれをといそうしりいつくもち
わうりいそうきものをこそひみちう
しうこそひねわくをわ侍まれて
ものふかう汁や身をとうけん義し
ひてもるれうこひやかるいうり
きつるあんうそしおもひしひかさ
うがうこんのくそ実れもやちく
なりてがうやうなるかるうわやう
たちの門松するひそうのうし
ものうそうとおもうちをおもう

つゆ、ぬらさぬうちにと、ぬしの、ぬしの、
ぬしの、ぬしの、ぬしの

男の御をゝなにのこゝろもわかれ
うをうしもいうこゝろ人うゝ所

捨世乃おと系　　同

王公こゝろもわゝくゝ人るゝ此姿とゝなゝ
れゝすゝるゝのゝゝくゝ所ゝすゝ人て身のむま
れゝそゝこゝろんゝ思ゝこゝろゝゝゝていやゝく
まゝゝゝうんゝいゝゝふゝこゝろゝすゝこれゝ死ゝゝゝく
こゝこゝものゝゝゝこゝひゝこゝのゝこゝゝこゝゝこゝゝて
はゝゝもゝなゝくゝこゝゝゝもゝこゝこゝたゝのゝひゝとゝ
こゝこゝゝこゝゝこゝゝこゝゝこゝゝこゝゝこゝゝこゝゝこゝゝ

てゝこゝるゝけゝくゝこゝろゝゝゝすゝゝやゝこゝ
はゝゆゝの身ゝこゝこゝこゝこゝこゝこゝこゝこゝこゝこゝこゝ
こゝ系のゝこゝるゝみゝもゝゝゝこゝゝ
わゝこゝこゝこゝこゝこゝこゝこゝこゝこゝこゝこゝこゝこゝ
ゝゝゝゝこゝこゝこゝこゝこゝこゝこゝこゝこゝこゝこゝこゝ
こゝこ

国立公文書館
National Archives of Japan

国立公文書館
National Archives of Japan